

遺跡からみる 戦争の姿

— 語り継がれる想い —

うずらの
兵庫県加西市鶉野。

ここには第二次世界大戦当時、飛行場や航空機製造のための工場、また対空用の装備などが設置されていました。
特に飛行場については、終戦直前に帰りの燃料を持たず飛び立つ若き特攻隊の出撃地でもありました。

その地には町の人たちの手により大切に保存された戦争遺跡群が現存します。
平和な生活の中で、戦時中の人々の有り様やその悲惨さ、想いは自分から触れていかないとなかなか知ることができません。
ともすれば知られずに忘れられていく当時の状況について、我々はどのように向き合っていくべきなのでしょう。

この度、戦争展実行委員会では現地に直接赴く機会を頂きました。
日常の中に隣り合う様に存在する数々の遺跡を直接体感する事により、当時、特攻隊員として命を落とす事が定められていた若者たちに想いを馳せることとなりました。

今年度は「大阪大空襲」、「飛行場」についての展示と公開講座を中心に戦争展を予定しています。
今もなお残る戦争の爪痕から我々が学び、後の世に語り継ぐべき想いは如何なるものが。日程を通して皆様と考えていけたらと思っております。
ご来場お待ち申し上げます。

2022 年

3/5(土) - 3/28(月)
9:00 - 17:30

会 場

真宗大谷派 難波別院（南御堂）
御堂会館 1 階エントランス

8 回におよぶ「大阪大空襲」の内、最も多くの犠牲者を出したのが 1945 年 3 月 13 日から 14 日にかけての第 1 回大阪大空襲です。

そのため、私たち大阪教区教化委員会では戦争展を毎年 3 月の時期に開催しています。

昨年秋に戦争展実行委員会が鶉野飛行場跡を訪れ、フィールドワークを行った際のビデオを公開しておりますので、どうぞご覧ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=x5q8lfzr54E>

